



断酒

みどりの友

発行所 呉みどり断酒会
 事務局 呉市 押 込 5-12-25
 渡部 憲方
 郵便番号 737-0915
 電話 33-5571
 発行人 渡部 憲
 編集代表 石橋 剛
 印刷 松広印刷機

本年も宜しくお願ひ申し上げます



親でさえ無理と言った『生涯断酒』
 会長 渡部 憲

皆さん、明けましておめでとう
 ございます。

(除夜の鐘が鳴ったら、来年こそ朝酒は止めよう)と、固い決心で紅白を観ながら飲んだ三十代。いつ鐘が鳴ったのか、紅白がいつ終わったのかも解らず酔いつぶれ、気づけば、人影のほとんどない元旦の早朝、団地の自販機の前に立っている自分があった。もう何年も変らぬ元旦恒例の自分の姿でもあった。

『一生涯酒を止める。もし、それが出来ないのなら懲戒免職。返事を聞かせてくれ。』36才の時、自衛隊の超エライ上司が二人家に来て、最終勧告を言い渡された。

今頃、時々思う。あの時上司は『一生涯酒を止める』と言ったけど、そんなもん、ずっと監視できる訳ないし、転動したり退職したりしたら、飲んででもわからんじゃん...と。ただ、これだけは言える。

当時の私には、『条件付きの勧告』は、もはや通用しなくなっていた。

『飲酒運転禁止』『朝酒での出勤の禁止』『勤務中の飲酒は論外』等々の勧告は、それまでに何度も何度も受けたがヌカに釘。守ったものは何ひとつなかった。『一生涯禁酒』、それしか選択肢は無かったのである。

そんなの無理じゃん、内心思っていた私を救ってくれたのは、間なしに飛び込んだ断酒会であった。助かった。奇跡であった。

懲戒免職を免れ、とりあえず安心して田舎に帰った母から、しばらくたって電話があった。「憲さん、お前一生飲まんなんて約束したけど、そんな事出来る訳ないけん。たまにはちよつとぐらい飲んでもいいわね。お前が嬉しそうな顔して飲むのを見たら、治美(妻)さんも喜ぶわね。」

生みの親でさえ、36才のこれからという男が、一生酒なしで生きていくなんで『無理』と断言した酒。そんな酒を今日まで断たせてくれたのがこの『断酒会』である。

第五十一回 全国(釧路)大会

阿寒湖・丹頂鶴そして勝手井の旅

感激、感動の連続だった昨年の沖繩大会、参加者の大半が初めての沖繩という事もあり、「ええ冥土の土産になつたわ」と、一年経った今も思い出話に花が咲く。

今年も、これまた参加11名が、ほとんど初めての釧路に於て、第51回全国大会が開催された。



会場の「釧路市観光国際交流センター」前で

今大会、特筆すべきは、中国ブロック代表として、家族の立場から曾根真由美さんが、体験発表の大役を立派に果たされたということである。

「夫が飲酒当時、いったい私が、

どんな気持ちでいたのか、今日は会場の皆さんに、また一緒に来た夫にも聴いてもらいたい。そんな思いで発表させて貰います。そんな言葉から発表は始まりました。



花束を抱いてご主人と

素晴らしい発表だった。何度も聞いた事のある話なのに、高井夫人は何度も涙を拭っていた。大会が終つて、曾根の御主人は気嫌が悪くないかな?と、少々心配だったが、会場出口で、主催者からの花束を抱いた奥さんと、笑顔でツーショットの記念写真に収まった二人を見て私達も嬉しくなった。冥土の土産じゃないけど、おそらく二度と来ることはないかな:

と思いつながら、また、運悪くか、運良くか、台風の影響で一日日程を延長。お陰で阿寒湖周遊船、釧路湿原に丹頂鶴等々、昨年の沖繩を上回るほどの感激を味わうことが出来た。そして、忘れられない「勝手井」の美味しかったこと...

台風による足止め、三日連続の「勝手井」、紅葉で染まった阿寒湖などなど、長生き出来たお陰で断酒が継続出来たお陰で、今回も忘れられない思い出多い釧路の旅と



運良く この日は丹頂鶴のお出迎え

なった。山口県の皆さんの、第52回山口大会のアピールで、会場を埋め尽くした千四百余名の参加者は来年の再会を誓い合い、会場を後にした。有り難うございました。

体験発表



曾根 真由美 (家族)

皆さん、こんにちは。第51回全国釧路大会、このような場で体験発表の機会を頂き、有りがとうございます。呉みどり断酒会、家族会員の曾根真由美です。よろしくお願致します。

私は夫と会社のお酒の席で出会いました。その頃は飲むとお喋りで明るくなり、悪いお酒では無かったと思いますが、若い頃から飲んだお酒で行き着いたところは、海外赴任中の幻覚・幻聴でした。

今から17年前、タイのバンコクでの暮らしが一年になる頃の夜の事です。突然、夫は「そこに誰か居る:!!」と言いました。私が「誰も居ないよ」と言っても信じてくれません。「絶対居る」と言つて、私には見えない人を追いかけて、家を飛び出して行きましました。私は駐車場で車の間やゴミ置き場を覗いている夫を掴まえ、やっとの思いで家に連れて帰りま

した。私は少し前に夫の様子が気になり、読んだ本に出ていた「アルコールの禁断症状」が頭を過りました。お酒のせいで居ない人が見えるのだと、本を見ても中々納得しない夫をタクシーに乗せ病院に向かいました。タクシーが走り出し、薄暗い異国の風景を見てみると、これまでの人生が崩れていくような絶望的な気持ちになつてきました。

入院する事になり、日本語の分る医師が来て下さり、ほっとしたのもつかの間、先ほどよりもっと激しい幻覚・幻聴が起りました。夫は向かい側のビルの屋上に居る、夫にだけ見える人の所へ行くようにして、8階の病室の窓から出ようとしてました。大騒ぎとなり、大勢の警備員が出てきて、夫はまるで犯人のように取り押さえられ、最後は注射で眠らされました。この時の夫の様子は、「幻覚・幻聴が出たら、この人は何をするか分らない。自分が死に繋がる事故を起こすかも知れないし、人を傷つける事件を起こすかもしれない。人に見えない物が見え、聞こえない声が聞こえるのでは社会生活は出来ない」私に、そう思わせ

ました。恐怖と不安で震えが止まりませんでした。

同じ階に入院していたタイ人からは、頭のおかしい日本人と一緒に居たくないと言った。何故その個室に移されました。何故その豪華な部屋にいるのか、反省もせず、まだお酒を飲む夫を私は許されませんでした。会社からは、帰国して五月の連休明けから日本の職場に戻るよう言われました。私は、情けない気持ちで帰国の荷造りや、お世話になった方への帰国の挨拶に回りました。何故急に帰国しなければならなくなつたか、本当のことは誰にも話せず、惨めな気持ちで病院に戻ると、夫はベットの上でウイスキーを飲んで



ていました。私は腹が立つて担当の先生に「先生、まだお酒を飲んでいますが。こんなことがあったのに何故まだ飲むのですか?？」と訴えました。先生は日本語で「頭がスカスカだから!!」と言われました。そのときは、その意味がよく分りませんでした。今になって当時の夫の悪態を思い出す時、その言葉が妙に私を納得させてくれています。そして「お酒を止めなければ幻覚・幻聴は、またあるかも知れない」とも言われました。その時から、私は「一滴のお酒も飲ませたくない!!」と思うようになりました。

帰国後、私はすぐに産業医に呼ばれ「専門病院に入院するか。断酒会に入らないと、会社で40歳を迎えることは出来ませんよ」と言われました。そばに居た看護師さんの気の毒そうに私を見る目で事の重大さが分りましたが、私ほどこちらも選べませんでした。「きつと止めてくれる。止めさすのは家族の責任」と思い、お酒を家から無くしたり、見張つたりして、私なりに頑張つたのですが、お酒を止めさせようとすればするほど、お酒の量は増えていきました。夫

は、連続飲酒になると会社を休み、私がお酒の事を注意すると怒鳴つたり、物を投げつけたりしました。飲めなくなるほど飲んだら近くの内科で点滴を受け、やつと会社に行けるようになるのですが、今度は、私は夫が職場で幻覚・幻聴が出ないか心配になりました。「何か起こつたら終わり!!」私は何時も崖っぷちに立っているようで、心休まる時はありませんでした。夫が目の前に居て、お酒を飲んでいない姿を見ている時だけが、海外出張はたまに有り、離れている時が一番不安でした。

夫の父親が亡くなった時も、海外出張中でした。夫に伝えるとお酒を飲んで大変な事になりそうで、伝える事が怖かったのですが、夫の親ですから伝えないわけにいきません。夫の実家は、夫の帰りを待つために葬儀の日を一日延ばしてくれたのですが、亡くなった事を伝えてから、夫とは連絡が取れなくなりました。私に連絡が来るのは会社の方で、「ご主人は飛行機に乗つておられません。こんな時、すぐに帰してあげられなくてすみません」と言つて下さいま

したが、私は帰れない原因がお酒
 と思い、会社や家族に申し訳ない
 気持ちでいっぱいでした。夫から
 連絡が無いまま、次に連絡を下さ
 ったのも会社の方で、「今日の飛行
 機に乗っています。帰られますよ
 …!!」と教えて下さいました。私
 はまた不安になりました。どんな
 姿で帰ってくるだろう…。幻覚・
 幻聴は出ていないのだろうか。葬
 儀が終わってから帰って欲しいと
 思いました。

夫が帰った時は、葬儀の真っ最
 中でした。夫の母や弟、みんなが
 泣き出しました。「間に合って良
 かった…!!」と一目でもお父さん
 に会わせてあげられた事を喜ぶ涙
 でした。私も涙が出てきましたが、
 私だけは「葬儀をぶち壊しにしな
 いで良かった」という、みんなと
 は違う安堵の涙でした。葬儀の夜、
 お酒を注意する私に夫は「お前は
 こんな時もお酒を飲むなど言うん
 か」と怒りました。夫の母親、親
 戚の人もみんなが「こんな時くら
 い良いんじゃない」と言いました。
 「何時も飲んでいて、こんな時つ
 てどんな時よ…!!。お酒を飲んで
 もいい時なんか私には無い…!!」
 心の中で叫びました。今もこの時

の気持ちは変わっていません。
 思った通り、夫はお酒が原因で
 飛行機に乗り遅れていました。断
 酒会に入会して、同じ時の遠く離
 れた違う場所での体験談から、想
 像もつかなかった相手の姿をお互
 いに知る事ができました。「何時
 か止めてくれる。止めさすのは家
 族の責任」と終わりのない夫のお
 酒と戦ってきた私の気持ちにも、
 終わりが有ってもいいと七年が過
 ぎた頃、思えるようになりました。

お酒を飲むのは夫、幻覚・幻聴
 が出るのも夫なのに、私は自分に
 は止めようもない幻覚・幻聴の恐
 怖に怯えて見張ることばかりして
 いる。見張っても、見張らなくて
 もお酒を飲むのなら、自由になり
 たいと思いました。何時もそばで
 見ていて、自分の身体のことより、
 私の事を心配してくれる病気の父
 を安心させたいという気持ちもあ
 りました。「お酒を止めるか、離
 婚するか、どっちかにして…」と
 私は夫に言いました。夫はどちら
 も選べませんでした。夫はどちら
 の動きがますます酒量を増やしたの
 だと思えます。そのような状況の
 中、二度目の幻覚・幻聴が出てし
 まいました。

夫はみどりヶ丘病院に入院し、
 退院したい気持ちが主で断酒会に
 繋がりました。断酒会に入会して
 二週間後、私の父は亡くなりまし
 た。父が亡くなるより、入会が先
 だった事と「何時までもお酒に振
 り回されなくて、自分の幸せは自
 分で掴むから、私は大丈夫…!!」
 と父に言えた事に私は救われた思
 いでした。

入会して十年。夫は断酒を続け
 てくれていきます。私にはお酒を止
 めさせる事は出来ませんでした。
 みなさんのお話や、研修会、大会
 で声を掛けてもらって夫はだんだ
 ん本気でお酒を止める気持ちにな
 ってくれたと思います。

この頃、回りに怪我や病気と
 色々な事が起こり、もう充分頑張
 っているのに、まだ頑張らないと
 いけないのか…?と、思うことが
 有ります。みなさんのおかげで、
 今日まで二人が例会出席を続けて
 来られた事に感謝し、会員・家族
 の方とこれからも一緒に続けて行
 きたいと願っています。そして、
 まだ元気な二人の母には、父親に
 迷惑を掛けた分まで安心してもら
 えるよう、夫の断酒に協力してい
 こうと思えます。

呉みどりヶ丘病院
 創立44周年記念
第497回特別院内断酒例会

初秋を感じさせる10月19日(日)、
 呉みどりヶ丘病院に於て、三百五
 十名余りの会員・家族・療養生の
 方達が参加し、創立四十四周年記
 念特院が盛大に開催された。



長尾澄雄院長先生

体験発表者は療養生二名、正会
 員三名、家族会員一名。当会から
 は、小川哲一さんが発表された。
 その後、小河先生の所感、院長先
 生の記念講演で盛り上がり、長尾
 澄雄院長先生の益々のご活躍と呉
 みどりヶ丘病院のご発展をお祈り
 して終了した。

呉みどりヶ丘病院創立記念特院 体験発表



小川 哲一
(本人)

呉みどりヶ丘病院創立44周年、おめでとーございます。呉みどりヶ丘病院には、平成7年3月に初入院し、平成26年に至るまで、**実に19年長い年月が経ちました。**

私は、入院の前日も多量のビールを飲み続けており、自宅であろうくまった状態で、どうしようもない身体になっており、翌日、院長の診察を受けて入院となりました。まだ、身体からアルコールが抜けておらず、とてもしんどかったのを覚えております。

自分は、アルコールの知識も全然なく、入院して来たこのみどりヶ丘病院が、どんな病院かも分からず、不安でいっぱいでした。ただ、他の病院とは何か違うし(ああ、これで自分の人生も終わったなあ……!!)と思つたのを覚えています。西三病棟の暮らしが始まりました。まだまだ酒が抜けない状態でしたので精神状態もおかしく、眠れな

い日々が続きました。そして、保健室にも三日間は入りました。

西三病棟から東三病棟に移り、私は、とにかくそこから出たくて、「退院させてくれ」と電話を掛けまくってしまいました。大量飲酒、異常飲酒のせいで、完全に狂ってしまったって自分がありました。そのくせ、まだアルコールの恐ろしさに気付かず、東三病棟で過ごしていました。相変わらず**眠れない日々が続いてました。**その当時の事は、覚えているのも半分、覚えていない事も半分です。18歳から30歳までの12年間、自分勝手に飲んだお酒、他人の言うことも聞



かずに飲み続けたお酒の罰で、挙句の果ての閉鎖病棟の入院だったと思います。

入院して日が経つにつれて、早く会社に戻って仕事をしたいという夢も、結局は自分のお酒のせいで諦めざるを得なくなり、退職しました。酒を止めなきや仕事も出来ないという事が、今頃になってようやく分るようになりました。

今でも、三階の『ガシャーン!!』という扉の閉まる音を忘れません。そして、またまた困った事が起きました。二病棟に移棟した頃から、また眠れなくなり、辛い毎日が続きました。病院でも色々手を尽くして色々な薬を処方して下さったのですが、かなりの重症でした。院長先生に処方してもらった薬で、

やっと眠れるようになった時の嬉しさを忘れません。心の底から先生に感謝しました。その時感じたことは、それもこれも全て自分の異常飲酒が原因であるという事でした。

そして、まもなく社会復帰病棟である一病棟、一〇二号室に移り、生活が始まりました。順調な生活が戻ったような嬉しい二・三年でした。そして、社会復帰も間近か

なあと思っていた頃、私にとつて、また大変な事が起こり、再び閉鎖病棟に逆戻りとなりました。アルコールが原因でなった病気とは思いますが、二病棟西の二〇六号室の中で『オムツ生活』を強いられ、辛い、五年間の生活が始まりました。それは、とても苦痛な毎日でした。

どんな病気かという点、**まず足が不自由となり、そして手までも自由になり、食事の時も食べるのが大変でした。**持つ所が太いグリップのスプーンでした。それも先端の割れたスプーンで食べてました。勿論、ずっとオムツをしたままの自分でした。(ああ、これで自分も終わりだなあ)とベツトの上で思いました。悲しくなつたのを覚えております。

検査の結果、胆石が胆のうにもあつたけど、胆管に胆石が溜まり過ぎ、痛みが出て国立病院で手術を受けて**胆のう摘出**をしました。国立病院から帰って、また元の生活に戻りました。アルコールで私の身体はボロボロになつてしまつた事によりやく気付いた自分でした。看護職員さん達には我儘の言い放題で、大変に御迷惑を掛けた

と思います。自然に歩けるようになる前に、まずは立ち上がるところから…。それは、口では言えないほどの苦勞がありました。何度も々々も転びました。泣きたくなるほどでした。何とか東三病棟に移り、毎日々々歩く練習が続きました。実に十年間掛かりました。そして、やっと退院の日を迎える事が出来、故郷の島根県浜田市に帰って四年半、酒は断つておりましたが、或る日コンビにに立ち寄った時、無意識のうちに缶チューハイ五百mlに手が出てしまい、家で飲んでしまいました。言うまでもなく、あつと言う間に元の木阿弥でした。その日から一ヶ月半、毎日休むことなく飲み続けました。またしても、酒が切れない自分になつてしまいました。

後で聞いて解りましたが、その頃、広島ふたば会の中田会長さんが、わざわざ広島からバスに乗って私の家に来て下さったそうです。たまたま、私は会う事が出来ませんでした。その数日後、みどりヶ丘病院の職員さん三名、院長先生、運転手さん達が家に来られました。自分は、昼間だったけどベットで寝ておりましたが「おい小川君、行くぞ：!!」と。何処かで聞いたことのある声だなあ〜と思つたら、院長先生でした。まさか、こんな遠くの浜田に院長先生が迎えに来られるとは：!!。自分は、職員三名の車に「トンコロ」を打たれて乗せられたのは覚えていません。二度目の入院となりました。平成21年8月7日の事でした。それから四年後に退院して、現在に至る訳ですが、ちょうど一年前の江田島での県連研修会に、私はまだ院内療養生として参加しました。「療養生の小川さん」と指名され、体験発表をしました。そこで「私は退院したら、今度こそ断酒会に入ります」と皆さんの前で公言しました。発表の後で、呉みどり断酒会の渡部会長から「待つちよろぞ。帰つても気が変わらんようになあ：」と、笑顔で握手をしてもらいました。

先日断酒継続一年を迎えました。18歳で故郷を離れて社会生活というのは、わずか七年間ほどやりました。酒を止める中で色々な気が付き、反省を繰り返しております。酒に関する間違つた知識、自分一人の断酒は出来ても断酒継続は出来なかつたこと。酒で命を落とし掛けた事も二度・三度とありました。東京で仕事をしていた時の事。そして、当院で胆石が見付かり死ぬんじゃないかと思う程の痛さを経験し、胆のう摘出で命拾いをしたこと等。(ああ、これで自分も終わつたなあ：)と、つぶやき、いや、実際に終わつていても不思議ではなかつたこれまでの五十年の人生。何時までも両親や妹に心配を掛け続けて行くのか不安で一杯です。しかし、ようやく断酒会に繋がる事が出来、先輩、仲間の手助けで、今年には故郷島根での山陰断酒学校に初めて入校でき、その感動は生涯忘れられることはないと思います。

命を助けて下さった院長先生、本当に有り難うございました。そして、何時までもお元気であいらして下さい。本日は、御静聴ありがとうございました。

第44回山陰断酒学校

例年だと国道54号線沿いの田園風景を眺めながら参加した山陰断酒学校だったが、今年には高速松江道沿いの新緑の稜線を眺めながら数台の車を連ねて、第44回山陰断酒学校の会場に向かった。初参加者1名を含む、12名の参加。



何時もながらだが、普段の例会とは異なつた会場の雰囲気と迫力ある体験発表者の発言に初参加の小川さんも圧倒され、感激した様子。亦、先輩会員に紹介して頂いて各地域の会員さんと名刺交換する光景も見られ、緊張感と充実感の中で三日間の研修も終り、再び会を約束しつつ帰路に着いた。

第44回 県連研修会（江田島）

今年も9月13日～15日の三日間第44回県連研修会が国立江田島青少年交流の家にて開催された。当会からは初参加者3名を含む22名が参加。また、今年も呉みどりヶ丘病院の療養生34名が初日に参



原本夫妻の断酒祈念

加。来賓も多数ご臨席を頂いて、総参加者数二百二十余名であった。研修では体験発表をする会員・家族、それに聞き入る参加者達。同じ苦しみ、大同小異の持ち主の発言に耳を傾け頷く姿がそここ

で見られた。研修の節目節目には、小河弘幸、長尾澄雄、西原一樹先生の講話を拝聴し、改めて「例会出席あつて

の「一日断酒」、断酒継続の大切さを再確認した三日間でした。



「断酒の誓い」川口さん

「飲酒運転追放」街頭キャンペーン

毎年恒例となった断酒宣言の日、全国キャンペーンの一環として「飲酒運転追放」のチラシ（テキスト）配りを11月1日（土）、JR呉駅前周辺で会員・家族17名が参加して行なった。



JR 呉駅前

日精連会長表彰に呉みどり断酒会（団体の部）

去る10月31日、徳島市『あわぎんホール』に於て、第52回精神保健福祉全国大会が開催され、呉みどり断酒会が日精連会長表彰の榮譽に輝いた。

第24回中国ブロック断酒セミナー

晩秋を感じさせる11月15～16日『島根県立青少年の家サン・レイク』に於て、第24回中国ブロック断酒セミナーが百六十名余りの会員・家族が参加して開催された。当会からも8名が参加。

今回は、全国連が待ち望んでいたアルコール健康障害対策基本法が施工されて初めての断酒セミナーであり、基本法への対応とこれからの断酒会発展のために如何に各地域断酒会が活動を推し進めて行くか、参加者達の忌憚のない意見交換がされ、後述の【活動宣言】が満場一致で承認された。

【第24回中国ブロック断酒セミナー活動宣言】

アルコール健康障害対策基本法が施工され、全国的に啓発活動や

酒害相談等に力点を置く活動が非常に大切と要望されている今、「例会の位置づけ、地域との連携、リーダーの育成」をテーマとした本セミナーは、次の3点を当面の断酒活動の重点目標とする。

1. 例会の位置づけ 「例会出席有つての一日断酒」と言われるように、断酒継続の基礎は日々の例会出席にあり、その場で酒害に振り廻された体験を素直に語り合い共感し合おう。

2. 地域との連携 “断酒会及びアルコール依存症のことを社会の人達に広く知ってもらう活動に取り組むと共に、行政・医療の協力を得る働き掛けを強めよう。

3. リーダーの育成（断酒会の手伝い、何が自分に出来るか）断酒会の中で自分出来る手伝いをする事は、断酒継続の大きな力に成ると共に、会の活性化させる為に努力をしよう。

以上、「基本法」への対応とアクションプラン「断酒会発展のために」を引き続き断酒会において取り組む事を確認し宣言とする。

（平成26年11月16日 第24回中国ブロック断酒セミナーに於いて採決された）

第48回酒なし忘年感謝会

平成26年も残りわずかとなった12月10日、恒例の酒なし忘年感謝会がシテイプラザ・スギヤに於て、呉みどりヶ丘病院院長・長尾澄雄先生をはじめ来賓・朋友の方達の出席を頂き、盛大に開催された。



飲酒時代にカラオケで鍛えた自慢の咽を披露する新人さん達に負けじと披露する先輩達：！！。普段、お目に掛かれない芸達者な人、それなりの人と色取り取りで楽しい時間を過ごした。そして、来年も『例会出席・一日断酒』で頑張ろうと誓い合って幕を閉じた。

寄付者御芳名

- ☆二年 林 健太郎 10月6日
- ☆一〇年 胤森 孝穂 9月7日
- ☆一〇年 小川 哲一 9月21日

断酒継続おめでとう

- 呉市阿賀南六一一〇二一〇三 石橋 剛
- 呉市阿賀北一一一五〇四五 山岡 直樹
- 呉市宝町一〇三 ベルデイ呉駅前グラデ五〇六 安岡 利勝
- 呉市阿賀北一一一五〇四五 小林 尚喜
- 江田島市大原特借宿舎三二四〇七 山崎 典子
- 呉市宝町一〇三 ベルデイ呉駅前グラデ五〇六 森 繁
- 呉市阿賀北一一一五〇四五 沖居 廣志
- 東広島市八本松飯田一一七一六四 一〇二メゾン飯田 盛 茂生

新入会員紹介

- (八月) 黒瀬 鍋山秀一様 五、〇〇〇円
- (九月) 熊野 胤森孝穂様 一〇、〇〇〇円
- (八月〜十一月度) 感謝箱 二、五二八円

行事予定

- ☆〃 住村 博士 9月19日
- ☆〃 中本 芳夫 9月5日
- ☆〃 高井 行雄 7月28日
- ☆三年 吉川 幸江 8月20日
- ☆四年 伊藤 康浩 10月30日
- ☆〃 前田 敏美 10月9日

- 1月31〜2月1日 第38回愛媛県ワナナイト セミナー
- 2月7日 (愛媛県生涯学習センター) 呉みどり断酒会
- 4月12日 (呉みどりヶ丘病院) 創立48周年記念例会
- 4月12日 (鳥取とりぎん梨花ホール) 第50回中国断酒ブロック大会

計報

当会の元相談役 大下忠志氏 (享年七十三才) 病氣療養中の処、去る11月26日お亡くなりになりました。ご冥福をお祈りしますとともに、謹んで皆様にお知らせ致します。(合掌)

平成26年10~11月度例会動員数

行事名	回	正会員	家族会員	賛助会員	他会員	院内会員	7-セブ	合計
土曜例会	9	292	111	51	89	666	199	1,408
水曜例会	9	279	111		2	8		400
家族の集い	2		12					12
ブロック例会	2	20	11					31
新会員を囲んで	2	19	10					29
院内懇談会	2	3						3
特別院内断酒例会	1	22	5					27
第51回全国(釧路)大会	1	7	4					11
三原断酒友の会創立45周年記念例会	1	15	7					22
呉みどりヶ丘病院創立44周年記念特別断酒宣言の日全国キャンペーン	1	28	9					37
断酒宣言の日全国キャンペーン	1	11	6					17
第19回ふくやま泊研修会	1	9	1					10
第24回中国ブロック断酒セミナー	1	6	2					8
県連理事会	2	10						10
呉みどり断酒会役員会	2	15						15
合計		736	289	51	91	674	199	2,040

平成26年8~9月度例会動員数

行事名	回	正会員	家族会員	賛助会員	他会員	院内会員	7-セブ	合計
土曜例会	9	287	99	52	120	675	161	1,394
水曜例会	8	242	92		2	6		342
家族の集い	2		13					13
ブロック例会	2	19	11					30
新会員を囲んで	2	23	11					34
院内懇談会	2	4						4
特別院内断酒例会	2	38	11					49
第44回山陰断酒学校	1	10	2					12
第44回広島県連研修会	1	18	6					24
第3回リカバリー・パレード	1	4	1					5
県連理事会	1	5						5
呉みどり断酒会役員会	2	16						16
合計		666	246	52	122	681	161	1,928